

# 地域ワークショップが 紡ぎだすもの

「地域のか」診断から地域づくりの取組みへ

静岡県立大学

津 富 宏

# 私のプロフィール

東京都出身

少年院の教官 19年

大学の教員 15年

地域づくりの理論／地域づくりの方法／地域づくりインターンシップなどを担当

地域への関心

若者就労支援(NPO)・学習支援(一社)

3.11後の静岡の(想定される)被災後への関心

静岡県民の誇りといえばなんでしょう？



静岡県民に誘われたら、決して「なにそれ」などと言ってははいけません。

# 静岡県

端から端まで200km

(静岡市から東京駅まで180km)

面積7,800km<sup>2</sup>(13位)

人口370万(10位)

一人当たり県民所得322万円(3位)

貧困率15.1%(良い方から8位)

恵まれた「田舎(?)」

# 静岡市(70万) 駿河区丸子 静岡市近郊 牧之原市(4.5万) 渋谷に直通バスが通ったのが自慢



社会を測る「ものさし」を変える

# 私たちは幸せにはなっていない

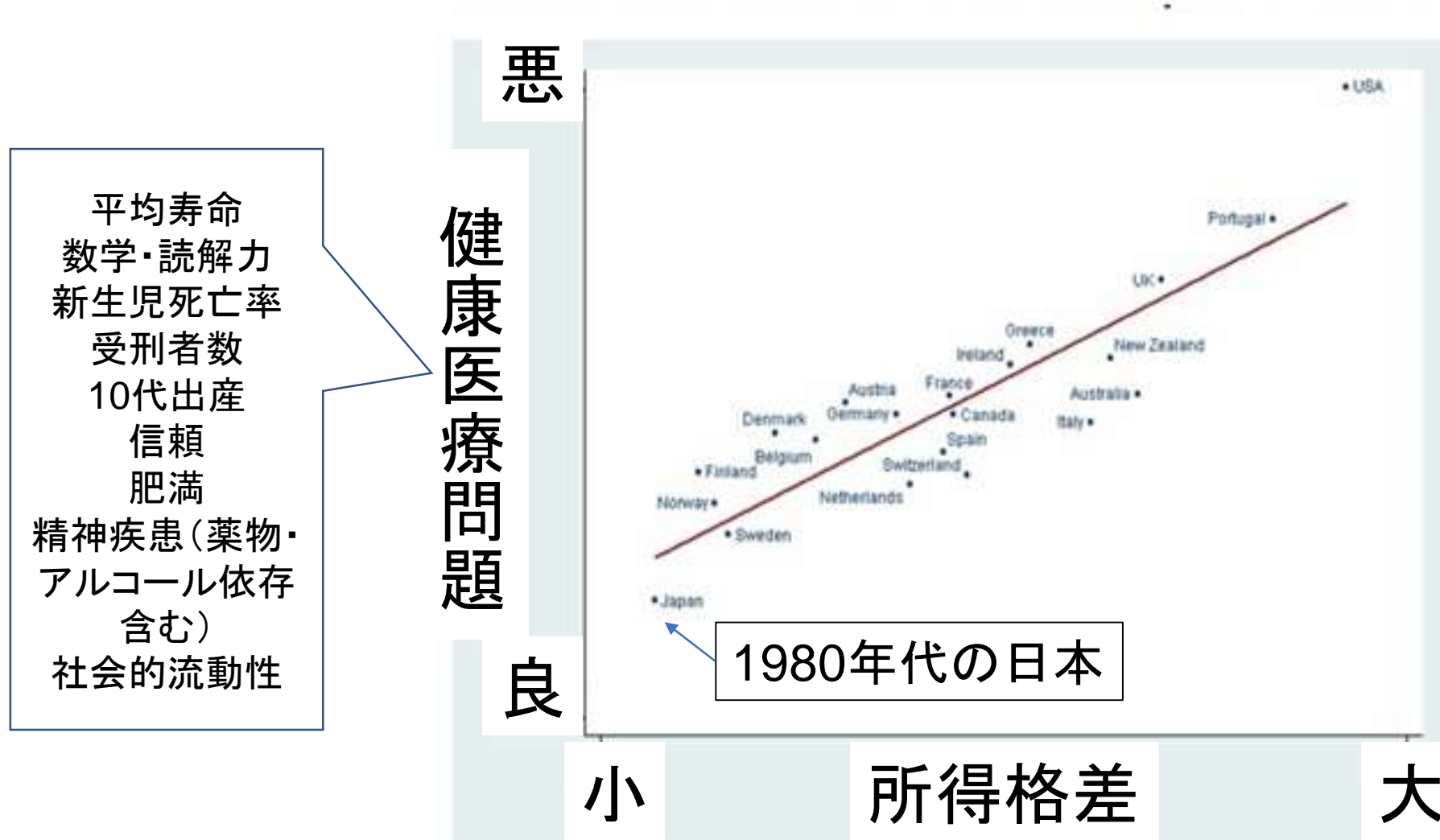
図1-1-23 一人当たりの実質GDPと生活満足度の推移



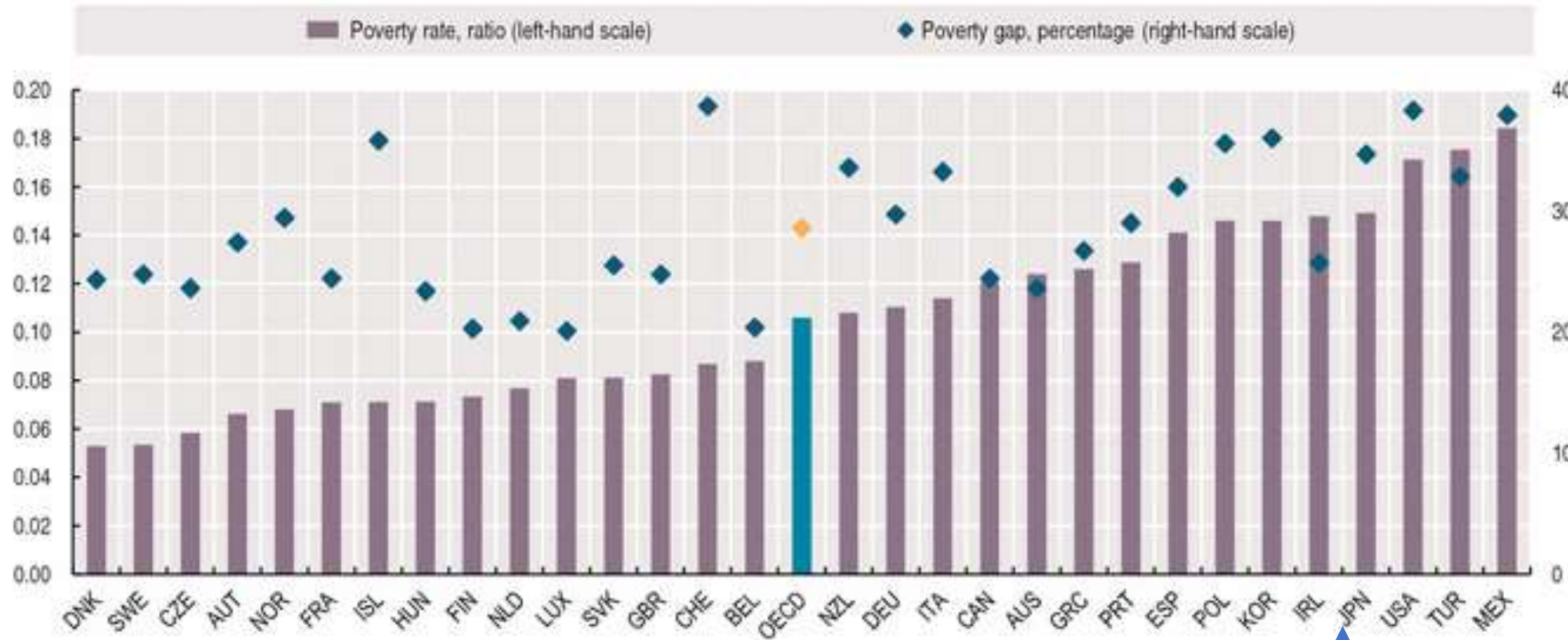
資料：内閣府「国民経済計算確報」、「国民生活に関する世論調査」より作成



# 格差は諸悪の根源



# 日本の相対的貧困率 (相対的貧困率は格差の指標)



2000年代半ばの日本

Robert B.  
REICH

# SAVING CAPITALISM

最後の資本主義

ロバート・B・ライシュ

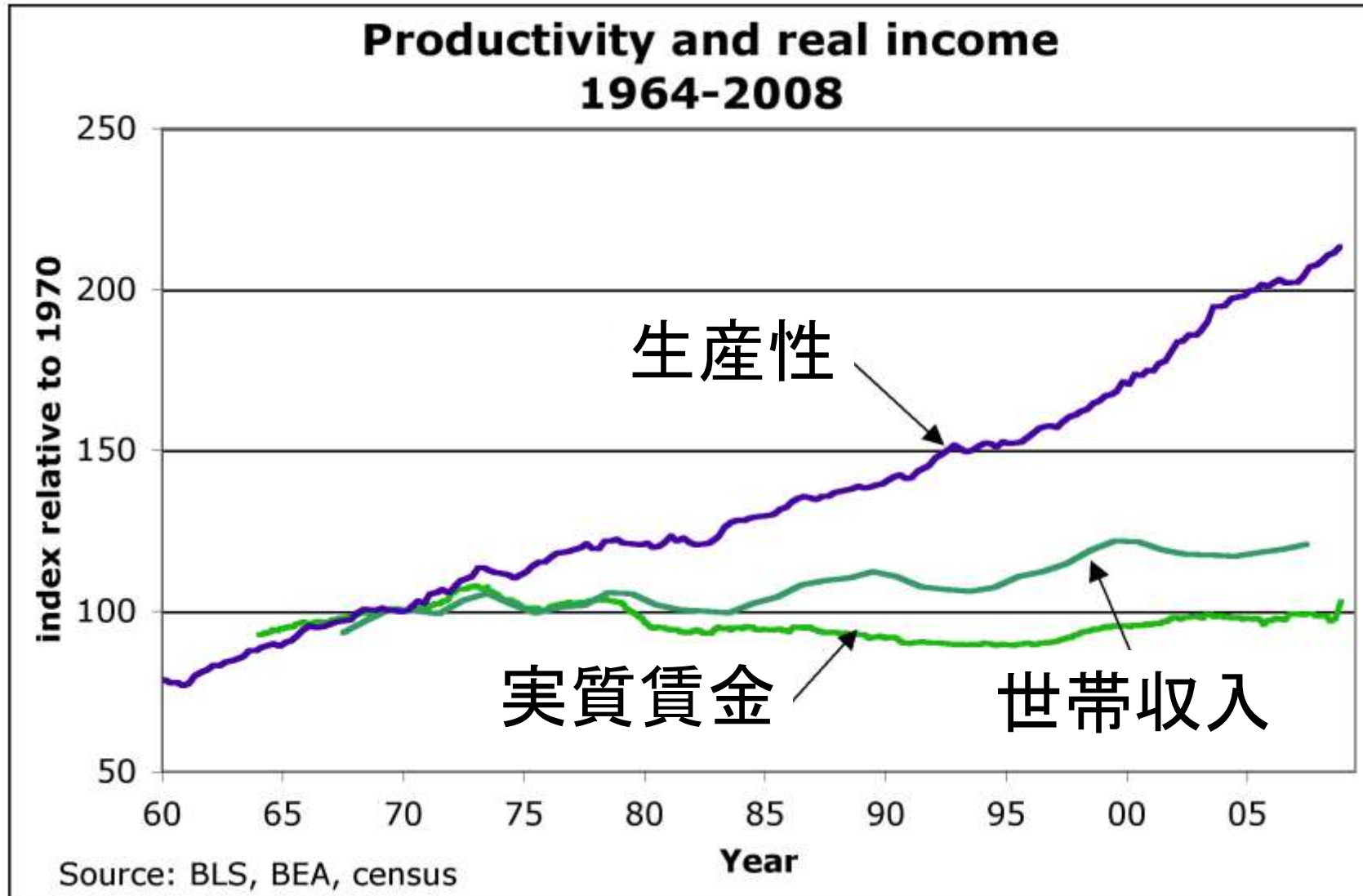
米国の良心  
絶望と希望を語る

「トランプ誕生!」の深層

雨宮寛・今井章子 (訳)

東洋経済新報社

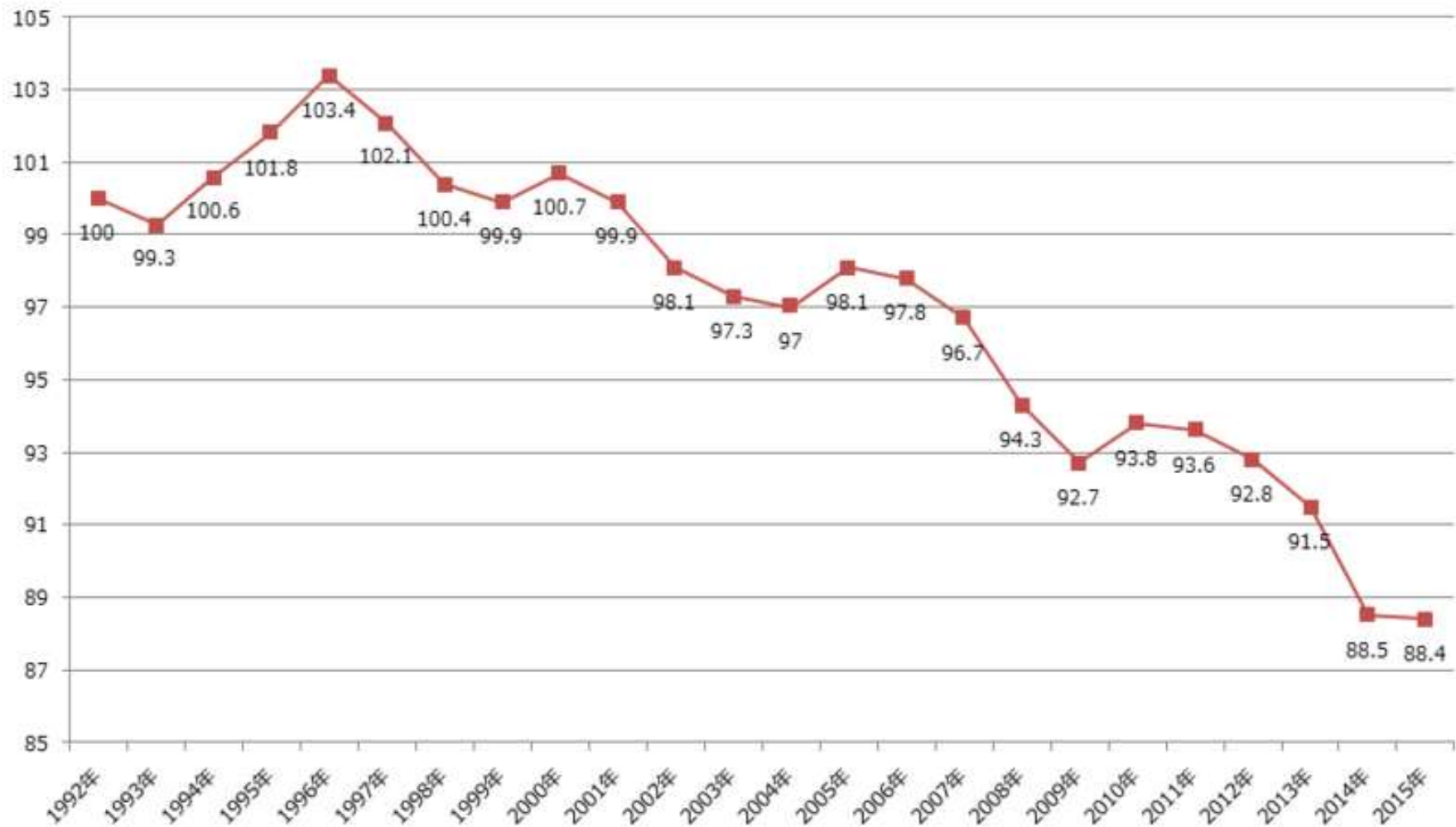
# 格差はどのように広がるか



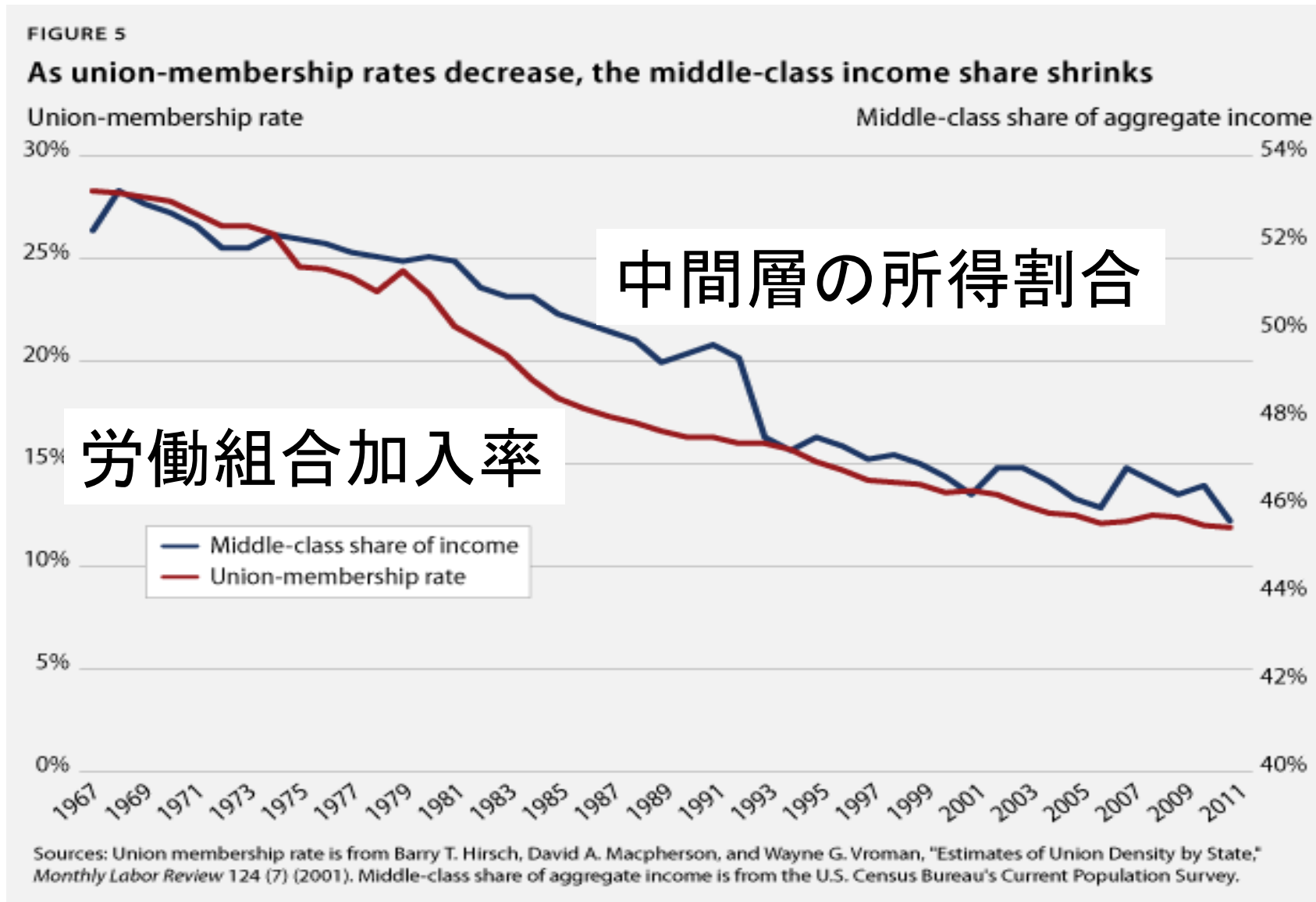
# 日本も例外ではない

## 実質賃金指数の推移

(1992年の賃金を100とする)



# 格差はどのように広がるか



幸福を測る 理念を測る

# OECD Better Life Index

- Housing 住居
- Income 収入
- Jobs 仕事
- Community 地域
- Education 教育
- Environment 環境
- Civic Engagement 市民参加
- Health 健康
- Life Satisfaction 生活への満足
- Safety 安全
- Work-Life Balance ワークライフバランス



Good life → Better life

アリストテレスの善き生 (Good Life)

Aristotle concludes that the good life consists in the possession, over the course of a lifetime, of all those things that are really good for us. (中略) So what are the real goods that a person should seek to obtain in order to live well? According to Aristotle they are:

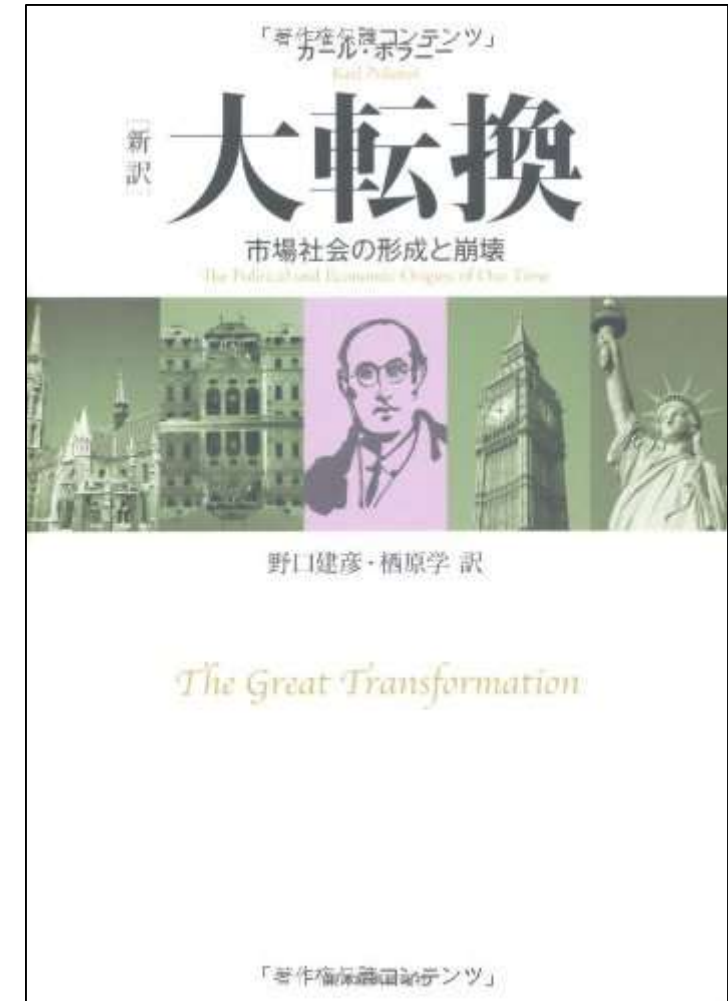
- 1) bodily goods – health, vitality, vigor, and pleasure;
- 2) external goods (wealth) – food, drink, shelter, clothing, and sleep; and
- 3) goods of the soul – knowledge, skill, love, friendship, aesthetic enjoyment, self-esteem, and honor.

成長の限界と資本主義への疑念

# ポラニー『大転換 市場社会の形成と崩壊』

- フレッド・ブロックによる概説から

「この主張の根底をなしている論理は、ポラニーの本来的商品と擬制商品との区別に依拠している。ポラニーにとって、商品とは、市場で販売することを目的に生産されたものである。この定義によると、土地、労働、貨幣は擬制商品である。というのは、それらは元来市場で販売されるために生産されたものではないからである。労働は人間の活動にすぎず、土地は細分化された自然であり、近代社会における貨幣の供給と信用の供与は必然的に政府の政策によって決定される。近代の経済学は、擬制商品が本来の商品とまったく同じように機能するものだと言いつくろつことから出発する」



# イタリアの市民的経済論

共同体の原理を守る市民的伝統  
社会の幸せの観点から経済活動を評価する

## 主要価値

- ・市民的美德： 市民的美德を通じてこそ、私利は公共の美德となる
- ・公共の信頼： 公共の信頼は、経済発展の真の条件である
- ・互酬性： 互酬性は市場経済の必要条件である
- ・万人の幸せ： 幸せは「関係性に基づく概念」である

# 社会的連帯経済

- 金銭的利益追求ではなく個人や地域の本当のニーズを満たす経済
- すべての人にとって民主的で透明な意思決定・経営が行われる経済

ブラジル労働雇用省がつくった、連帯経済に関するビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=HrBhNdEbLOk>



# SDGs: sustainable development goals

目標 1 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

目標 2 飢餓に終止符を打ち、食糧の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

目標 3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

目標 4 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

目標 5 ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

目標 6 すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

目標 7 すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

目標 8 すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する

目標 9 レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る

目標 10 国内および国家間の不平等を是正する

目標 11 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

目標 12 持続可能な消費と生産のパターンを確保する

目標 13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

目標 14 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

目標 15 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

目標 16 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

目標 17 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

# 「地域の力」診断ツール

- ・共生社会
- ・経済・金融
- ・自然との共生
- ・暮らしと生活
- ・公共施設
- ・文化と伝統

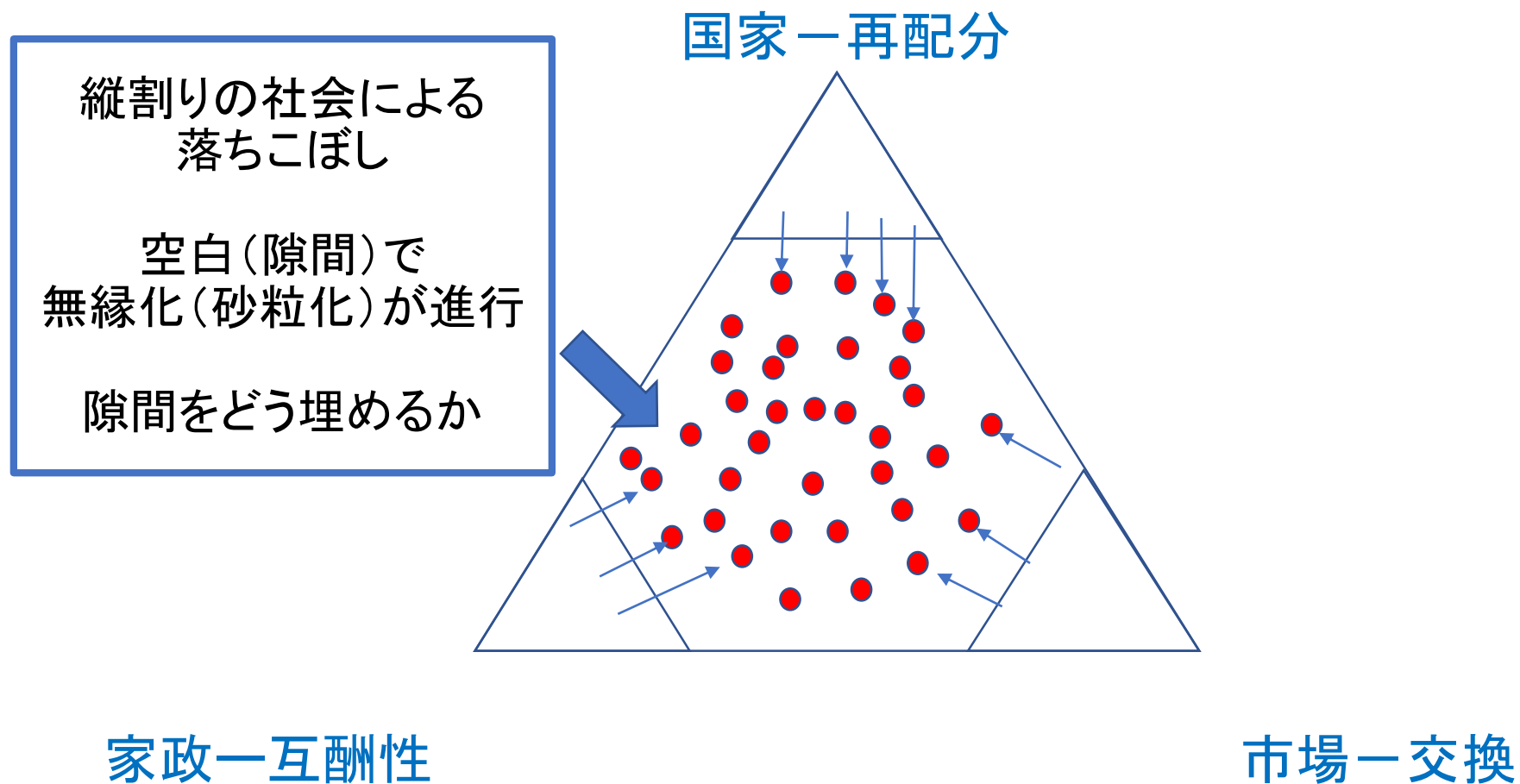


地域でワークショップをする

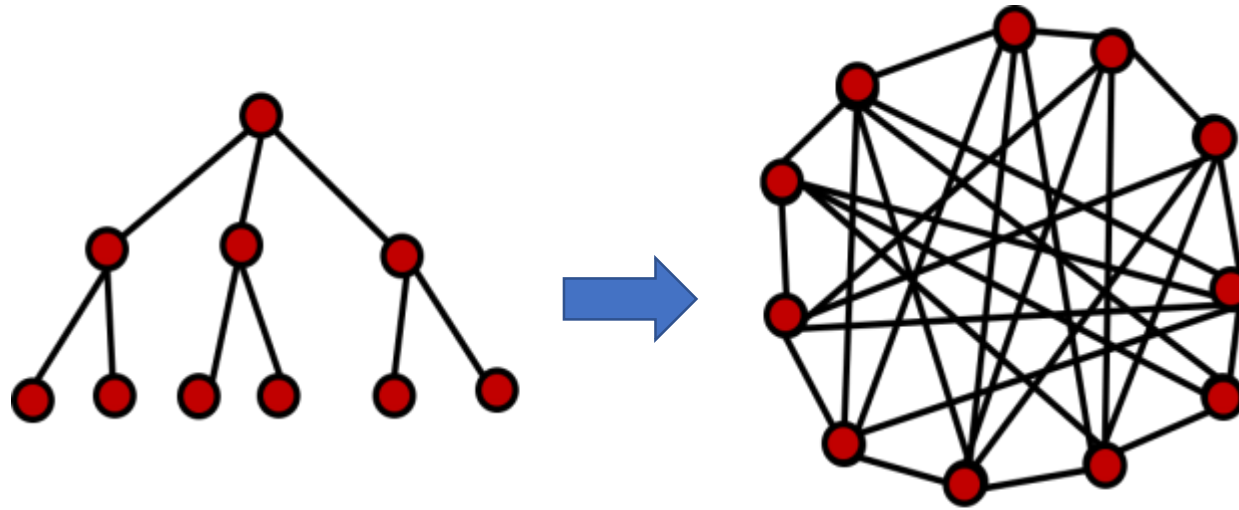
地域における  
ワークショップとは

地域そのものを紡ぎだす

# ペストフの三角形を手掛かりに表現した「社会」 隙間の拡大



# 隙間を埋めなおす 再組織化：無縁化ののりこえ

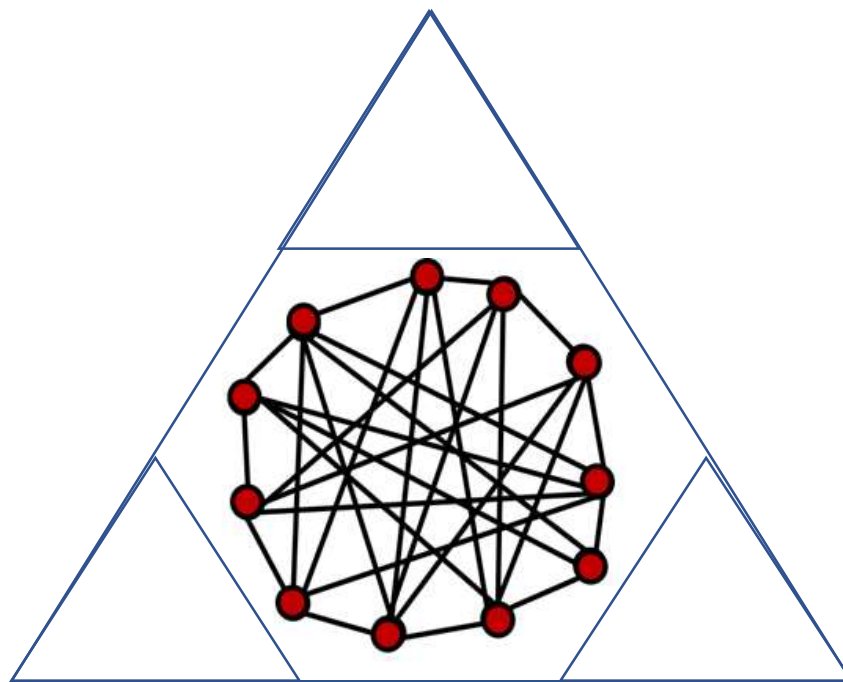


ピラミッド  
縦割り

ネットワーク  
相互作用

# ネットワークで隙間を埋め直す

国家—再配分



家政—互酬性

市場—交換

ワークショップのやっていること

地域の編み直し／再組織化

reorganization

organize ← organ (臓器) → organic (有機的な)

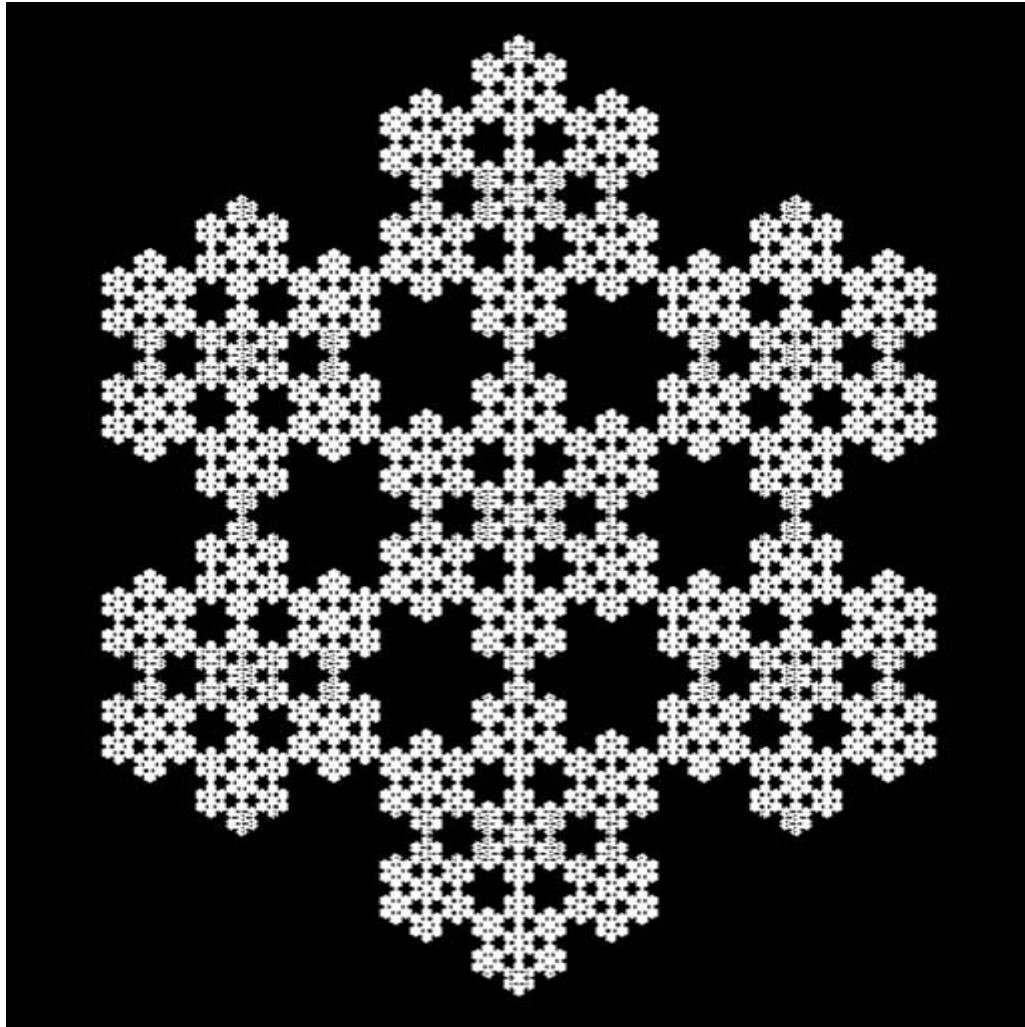
コミュニティを「生き物」とする

地域における  
ワークショップとは

「地域の縮図」

地域の集合知を形成する場

# フラクタル構造としての地域



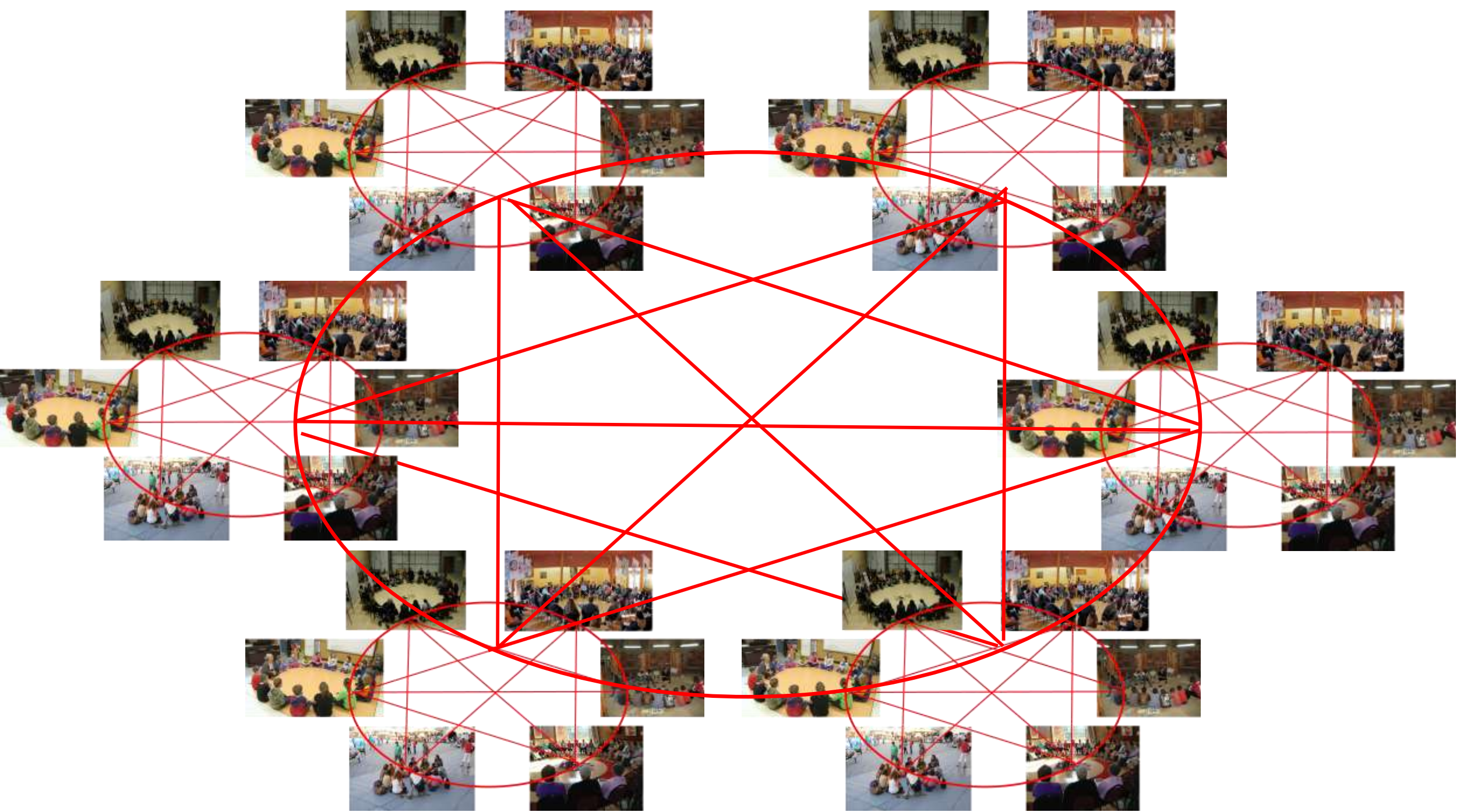
メタファーとしての自己増殖系





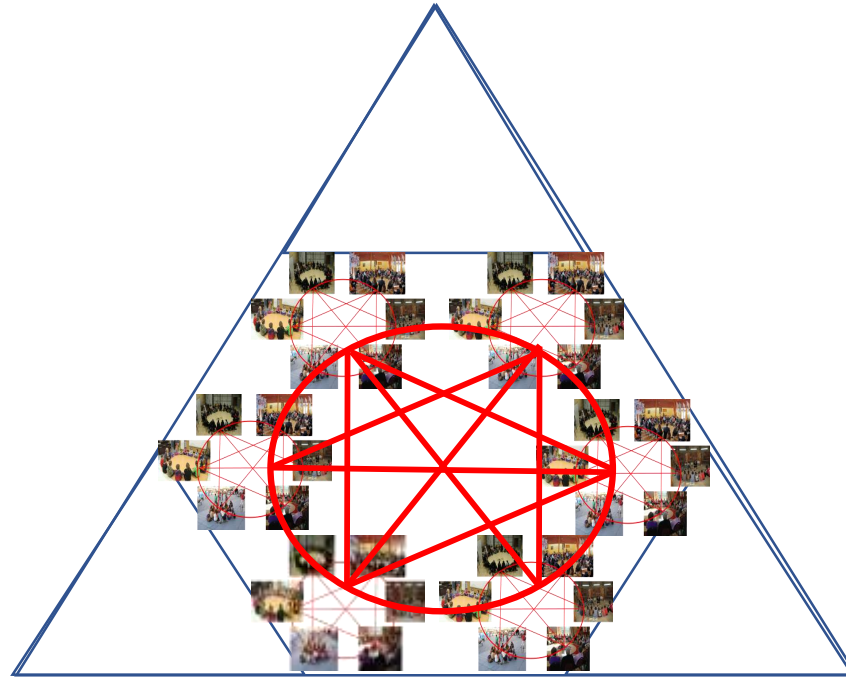






# ワークショップで隙間を埋め直す

国家—再配分



家政—互酬性

市場—交換

## 地域に連帯をつくる

# NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡による 沼津での取組み

どなたでも参加いただけます

## 沼津の貧困を 考える

2016年4月23日(土)  
時間 10:00~15:00 申込  
場所 サンワイルぬまづ 大会議室  
参加費 無料

孤立 貧困 みんな笑顔で  
くらす街  
**集まれ!** 就労支援

子ども食堂 学習支援

会場 ▶ 沼津市日出町1-15 サンワイルぬまづ 2階大会議室

お問い合わせ・お申し込み  
NPO法人  
青少年就労支援ネットワーク静岡 事務局  
電話 055-922-1620  
FAX 055-922-1625  
メール shuuro@cy.tnc.ne.jp

主催  
NPO法人  
青少年就労支援ネットワーク静岡  
http://www.tncnpo.org

フードバンクの食糧試食と説明

活動報告：貧困を知る、貧困から  
抜け出すための女性の現状と特色

グループ活動：人と人をつなぐ  
感謝おしゃべりミーティング

活動報告：貧困を知る、貧困から抜け出すための女性の現状と特色

グループ活動：人と人をつなぐ感謝おしゃべりミーティング

お問い合わせ・お申し込み  
沼津市日出町1-15 サンワイルぬまづ 2階大会議室  
電話 055-922-1620  
FAX 055-922-1625  
メール shuuro@cy.tnc.ne.jp

ボランティアサポーターさん いらっしやい!

学習支援・子ども食堂・しゃべり場・お仕事体験...etc  
ひとりでは出来ないことも仲間がいれば大丈夫!

4/27・5/25・6/22・7/27 (毎月第4水曜日)  
サンワイルぬまづ 2階会議室 19:00~21:00

第1回目は集まりの名称を決めます!

**ボランティアサポーターミーティング**

ボランティアの語り合う場

- ・何がしたいけど・・・
- ・ボランティアはいつするの?
- ・学習支援するにはどうすればいい?
- ・子ども食堂をやりたい
- ・学習会をしたい・・・

参加ルール  
人の話を聴く 人のことを責めない  
たくさんの人と話す

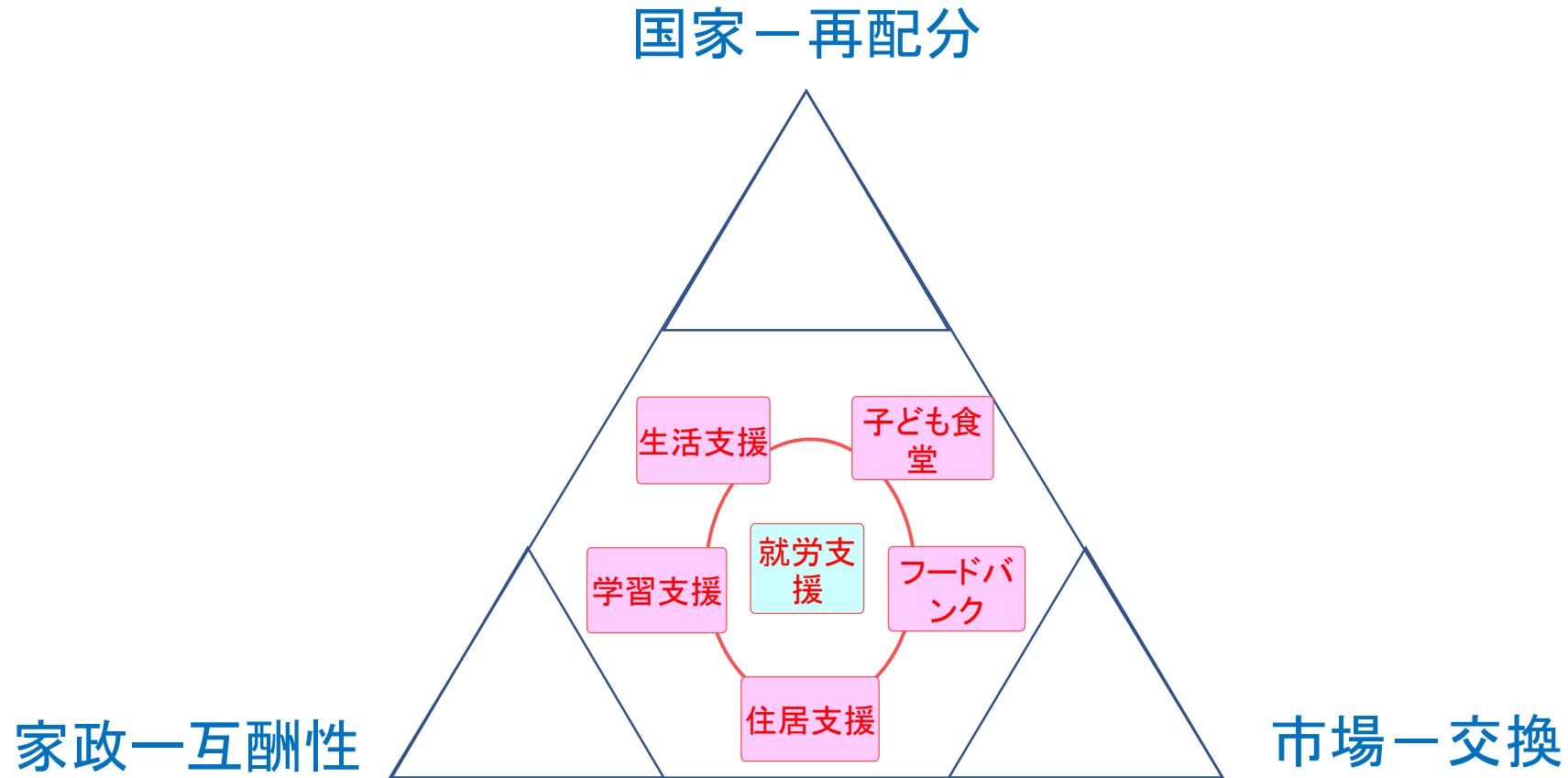
参加無料 申込み不要  
持ち物 笑顔とお菓子

お問い合わせ  
NPO青少年就労支援ネットワーク静岡 事務局  
沼津市日出町1-15 サンワイルぬまづ2階  
☎ 055-922-1620  
numazu-jiritu@tenor.ocn.ne.jp

運営：NPO青少年就労支援ネットワーク静岡のボランティアのみなさん



# 隙間を「支援の生態系」で埋め尽くす



市民の力で地域のセイフティネットを作る

# 椅子を空けておくということ



『地域のか』診断ツールと  
地域づくりのワークショップの相性を考える



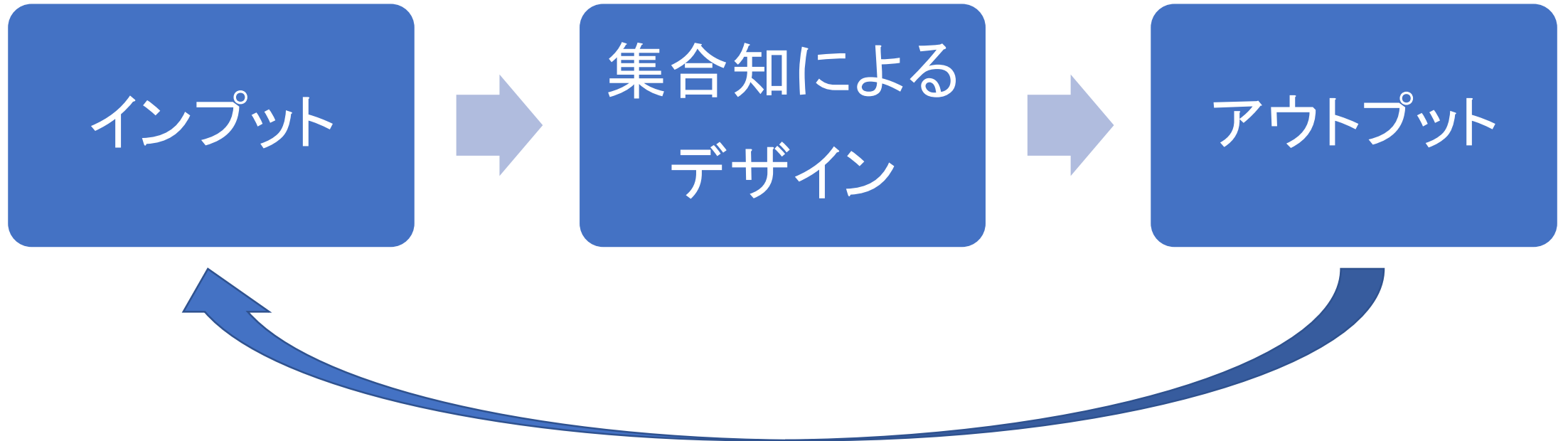
# 『地域のか』診断ツールワークブックで示された ワークショップの目的／効果

- ・ 地域づくりに関心のある地域の方々が集うきっかけになる
- ・ 診断だけでなく、結果について議論することで内容を掘り下げることができる
- ・ 地域課題について語り合うだけでなく、その解決に向けた実践へとつなげてもらう

# 『地域のか』診断ツールワークブックにおける 診断ツールとワークショップの位置づけ

- ①「地域のか」診断ツールにより、地域の特徴を把握する
- ②ワークショップにより、地域に対する現状認識を共有する
- ③ワークショップにより、地域づくりのための協力関係を確認・強化する
- ④診断ツールワークショップを、一定期間経過した後にもう一度行い、「地域のか」の変化をチェックしその後の取り組みを検討する

# ワークショップの基本構造



アウトプット＝地域におけるビジョンの共有  
「私たちは、どうやって、〇〇を実現するか」

# 地域づくりワークショップにおけるインプットに求められる性質

ソース： 行政、まち、ネット、人

多様さ： 人物、分野、空間、時間

リアルさ： 映像・写真(ビジュアル)、音(オーディオ)

より多くの気づきを得るための情報のインプット  
豊かな情報の編み直しが「気づき」を生み出す

「地域の力」診断ツールは数値化による情報縮約をするだけでなく、より豊かな情報を加えてみたらどうか。

## 二通りの順番

- ・ワークショップ → 診断ツールの作成
- ・診断ツールの作成 → (診断)ワークショップ

## 今回は後者

### 長所

- ・網羅的な観点の確保
- ・住民からは必ずしも生まれない観点の提供。

### 短所

- ・目標設定における非自発性(我が事になっていない)

## まとめると

- ・診断ツールは、自分を映す鏡としての利用。しかし、鏡の価値はよくわかっていない

# 一つの範例

## ワークショップ → 診断ツールの作成

同志社大学の松川・立木による神戸市での地域診断ツールの作成

KJ法によるワークショップを行う

問いは「地域のつながりを豊かにするには」

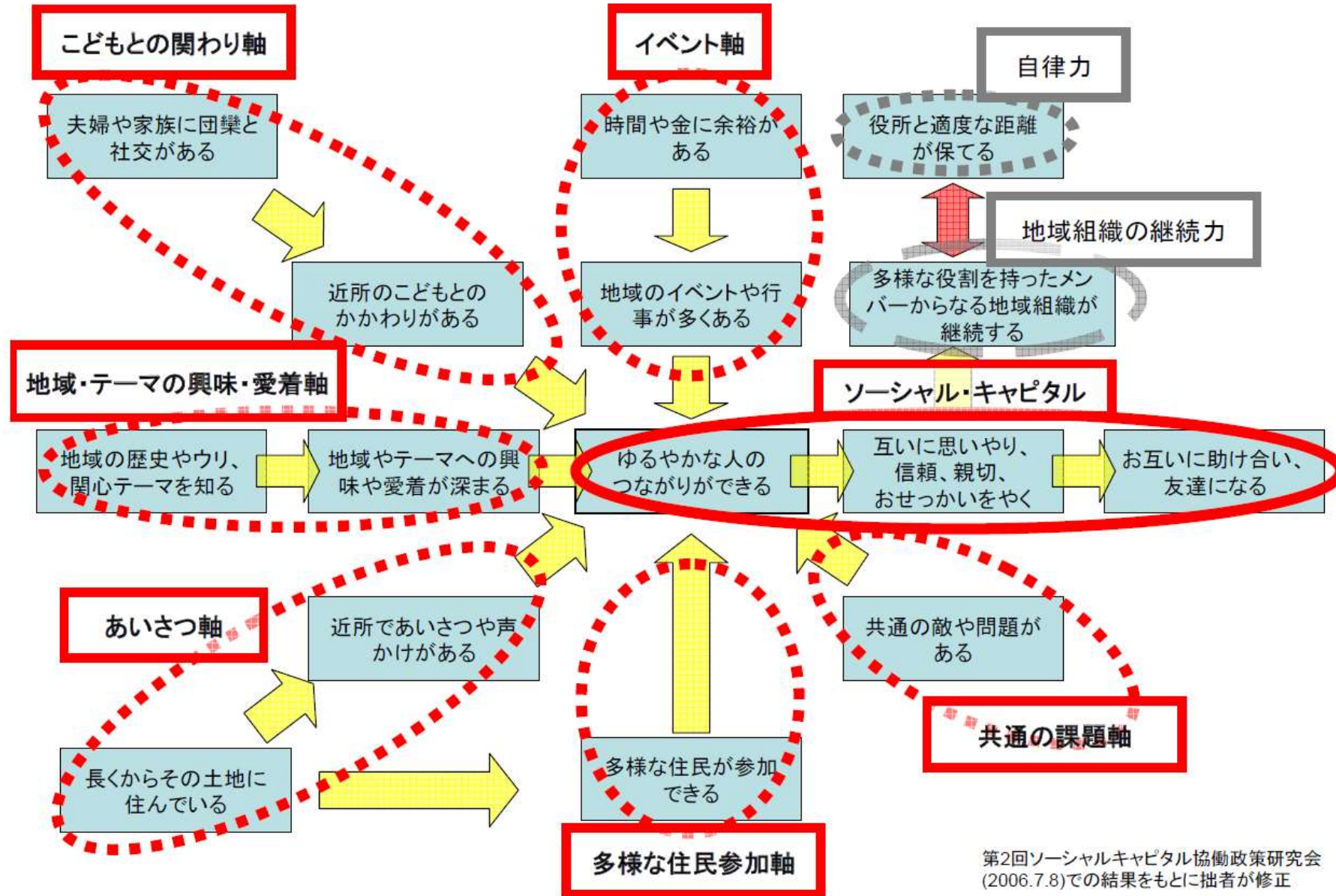
\* 問いがすべて。

理念だけではなく、理論実証に基づくのが特徴

・ソーシャルキャピタル(社会関係資本)の理論に基づく。

・ソーシャルキャピタルが、マナー違反、犯罪、犯罪不安を予測することを実証

# 地域のつながりを豊かにするために必要なことは？



第2回ソーシャルキャピタル協働政策研究会  
(2006.7.8)での結果をもとに拙者が修正

図4 ソーシャルキャピタルの形成促進要因とその効果

# ソーシャルキャピタル促進要因

Q29(17) いろいろな住民や商店街・地元の企業の人たちが地域の活動に参加できるように、間に入って仲介してくれる人を見つけること

Q29(21) 商店街、地元の企業などと連携すること

Q29(16) 地域の課題を解決する際に、自治会・管理組合だけでなく商店街や地域の企業などにも幅広く参加をよびかけること

Q29(22) 共通の課題を解決するためにNPOなどと連携すること

Q29(14) 子ども自身の手で行事・イベントづくりができるようにすること

---

Q29(12) 子どもと大人と一緒に参加できるような行事・イベントを企画・開催すること

Q29(9) 住民が主体となって行事・イベントを企画・開催すること

Q29(13) 多様な年代の子ども(幼児・児童生徒)が集まれるたまり場をつくること

Q29(10) 地域の行事・イベントに、住民が参加するよう促すこと

Q29(11) ごみ問題や住環境の問題などを解決するために活動を地域内でイベント化(のぼりを立てて地域内を練り歩くなど)し、みんなが楽しんで参加しやすくすること

---

Q29(18) 地域がかかえる共通の問題を住民に広く知ってもらうこと

Q29(19) 地域の課題を解決するとき頼りにできる人や手助けをしてくれる人を見つけること

Q29(15) 地域の課題を解決する際に、自治会・管理組合だけでなく関心を持っている個人にも広く参加をよびかけ

Q29(20) 役員の決め方や運営が引き継がれるように、マニュアルやハンドブックを作ること

Q29(23) 行政の下請けではなく行政と対等な関係を保って地域活動を行うこと

---

Q29(3) 地域の魅力やウリ(自慢できるヒト・モノ・コト)を見つけ出すこと

Q29(1) 地域の伝統・文化・歴史を知ること

Q29(4) 地域の魅力やウリを広報紙やホームページなどを使って地域の内外に発信すること

Q29(5) 特定のテーマで活動を行っているボランティアやNPOなどを知ること

Q29(2) 地域の生活で役立つ情報を集めること



# ソーシャルキャピタル

---

Q30(1) 近所の人同士があいさつを行うこと

Q30(2) 住民同士が立ち話を行うこと

Q30(3) 住民同士が趣味やスポーツを一緒に行うこと

Q30(4) 住民同士が一緒に出かけたり、買い物や食事をしたりすること

Q30(5) おすそわけをしたり、おみやげをあげたりもらったりすること

Q30(6) お互いの家に遊びに行ったり、来てもらったりすること

Q30(7) お互いにお節介をやいたり、思いやったりすること

Q30(8) ちょっとしたこと、助け合いをすること

Q30(9) お互いに友達になること

いくつかの(理念的)指標を測るのはよいが、  
その因果構造をとらえることは必要

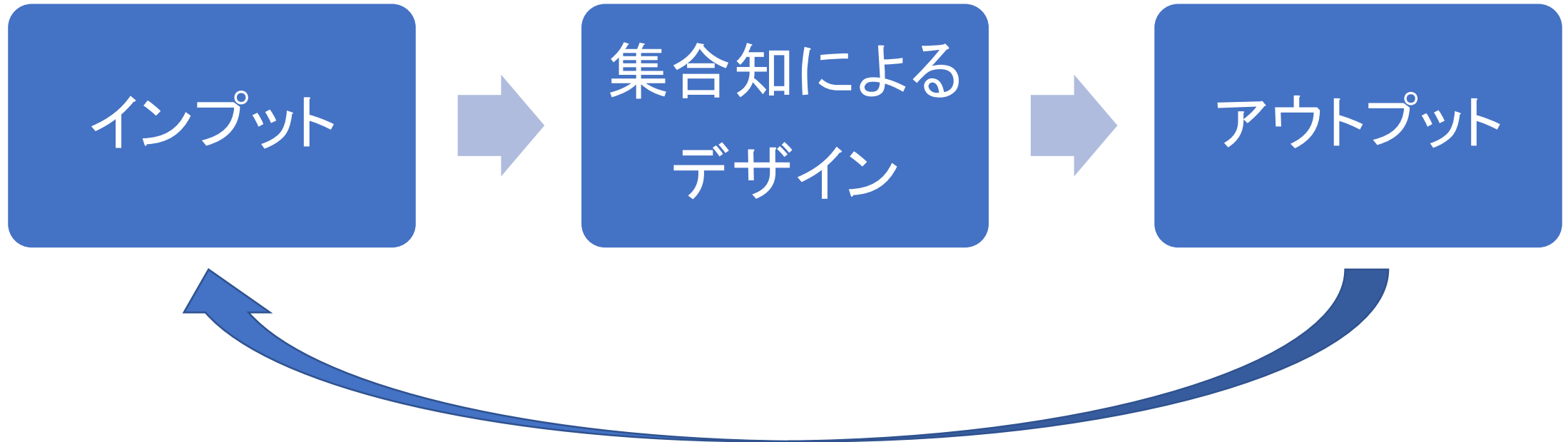
「どうやって地域を紡ぎだすのか」

「紡ぎだされた地域が何を生み出すのか」

「私たちは何をどうやって実現したいのか」

私なりの暫定的結論

# ワークショップの基本構造



アウトプット＝地域におけるビジョンの共有  
「私たちは、どうやって、〇〇を実現するか」

# PDCAを回す

地域診断ツールはアウトプットの一つ  
良いアウトプットを生み出すためのインプット  
とデザインが必要

地域に学びを取り戻す

例 連続講座「新しい社会のかたち・すがたを考える」  
地域が未来を見通せる価値観を持つ